

小石川高校ラグビー部

後援会会報 Vol.6

発行責任者 後援会理事長 斎藤守弘 平成 17 年 8 月発行

公式ホームページ <http://www.geocities.jp/koishikawarugby/>

目 次

○小石川高校ラグビー部より

- ・平成 16 年度新人戦結果…………… 1
- ・新人戦を振り返って
渡辺 貴行 (FW バイスキャプテン)
多久 和真 (BK バイスキャプテン)
…………… 1
- ・平成 17 年度春季大会結果・観戦記
春季大会 1 回戦 - 目黒学院高校戦 -
南 公一郎 (平成 15 年卒)…………… 1
新人戦・春季大会を観戦して
鈴木 隆 (昭和 35 年卒)
「CHANGE OF PACE の勧め」…………… 2
- ・春季大会を振り返って
島崎 和徳 (キャプテン)…………… 3
瀧上 希 (マネージャー)…………… 3
山田 憲永 (顧問・体育科教諭)…………… 4
- ・現役部員の状況…………… 4
- ・卒業生の進路…………… 4
- ・新入部員紹介…………… 5

○連載 OB コラム

- 矢島 秀一 (昭和 56 年卒)
「チームワーク」…………… 5

○OB 現役プレイヤーより

- 井戸 聞多 (平成 12 年卒)
「どこまでいけるか？」…………… 8

○理事会より

- ・ご挨拶
後援会会長 川口 明 (昭和 42 年卒)…………… 9
- ・平成 17 年度総会のご報告
総会承認事項
総会の模様 斎藤 十五 (平成 15 年卒)…………… 9
- ・平成 17 年度会費納入のお願い
ご挨拶
会費納入担当 植草 正信 (昭和 43 年卒)…………… 9
- ・学年幹事について…………… 10
- ・公式ホームページ紹介…………… 11
- ・後援会メーリングリスト参加のお願い…………… 11
- ・住所不明者…………… 11
- ・編集後記…………… 12

○総会資料

- ・総会資料…………… 13

○小石川高校ラグビー部より

平成 16 年度新人戦結果

- 1/30 ● 対石神井高校
0 - 43 (前半 0 - 21、後半 0 - 22)
- 1/23 ● 対帝京高校
0 - 45 (前半 0 - 12、後半 0 - 33)
- 2/20 ○ 対東京農大一高校
17 - 0 (前半 0 - 0、後半 17 - 0)

新人戦を振り返って

渡辺 貴行 (FWバيسキャプテン)

春の大会も終わり、あと残すは秋の花園予選だけとなりました。今年のFWは他校と比べて小柄なため、力勝負ではなく走力勝負で勝つということを目指しています。そのため、FWには試合の最後まで走りきれる体力をつけるため、最近の練習はフィットネスが中心となっています。練習の内容はキツイことばかりで決して楽なことではありませんが全員が「勝つ」という共通の目標を持ちながら練習に取り組み、日々筋肉痛と死闘を繰り返しています。

また、練習をするにあたって、ただやれと言われたからやるのではなく、「なぜこの練習をするのか」、「どのような場面なのか」などといったことを考え、意識して取り組むということを心がけていきたいです。

まだまだ弱小なFWですが秋までに少しでも強くなれるように努力していきたいと思います。

多久 和真 (BKバيسキャプテン)

今、バックスに求められているのは鋭いタックルと個々の得点能力だと思う。新チームになってから早くも8ヶ月たっているが、いまだにタックルに行く姿勢が見られていない。気持ちの面で怖がっている部分がまだ多くあると思う。夏前にはこれを克服し、一人一人がどんな大きな相手にも恐れずに下にタックルに行けるように日々練習を重ねていきたい。また、新人戦、春季大会を通して4試合でトライが4つしかないことに対し得

点能力の無さを思った今、バックスは1対1、1対2などの個人の強さを追及している。一人一人のスキルアップがチーム全体のレベルアップにつながり、得点力アップにつながるはずである。

今後、小石川の試合を見にきていただけたときには是非バックスの個人能力の強さを見てください！

平成 17 年度春季大会結果

- 4/17 ● 対目黒学院高校
5 - 42 (前半 0 - 28、後半 5 - 14)

平成 17 年度春季大会観戦記

<1回戦 対目黒学院高校>

南 公一郎 (平成 15 年卒)

4月17日、春季大会1回戦が三鷹高校で行われた。この日は晴天で陽射しが強かった。相手はあの強豪の目黒学院といったどんな試合になるのか楽しみであった。

前半戦は風下でのマイボールで始まった。相手の一方的な戦いになると思いきや10分経過した後も小石川のタックルが冴え、攻撃を食い止めていた。しかし、15分に目黒学院につながれてしまい中央にトライされた。その後も小石川は、途中フルバックの位置に誰もいない状況があったり自陣のゴール直前でつながれてしまったりするピンチがあったが、相手のミスにより助けられた。それは自分たちのチームの雰囲気は相手にもたらしたものであったと思う。しかし、次第に小石川のセットプレーでのミスが重なり自分たちのリズムが崩れだした。そんな中、22分やはり目黒学院がゴールまでつなぎ中央にトライし0対14になった。その後は25分に小石川のキックミスによって敵陣からつながれてトライ、28分にはマイボールでせめながらもインターセプトされトライを決めさせてしまった。そして前半は終了した。

ハーフタイムで前半を反省し、士気を高めあった小石川は後半戦にいったいどう試合を見せて

くれるのか。風上での相手ボールで始まった後半戦は開始早々に蹴り込みキャプテンの島崎が走りこみ相手のミスを誘うという積極的なプレーが出た。それから小石川の雰囲気良くなってきた。そして相手の足が少しずつ止まり始めた。後半 10 分にマイボールラインアウトから 22m ラインの内側まで攻めたが止められた。しかしまだチャンスは続き BK がつないで、センターで 1 年の池田が右端にトライを決めた。しかしその後、小石川のリズムが続くことはなく足が止まり始めた。そして 19 分に外まで回されてしまいトライ、22 分にはフルバックのライン参加により中央にトライされてしまった。そして試合は終了した。

結果は 5 対 42 で大敗した。やはり集中力、体力が継続しなかった。強豪といわれているチームに対しても十分対等に試合できる力を持っているだけに基本的な力の差で負けてしまったことは悔しいことである。今回の試合で現役はたくさん宿題をもらってきたことだろう。この宿題を忘れないで一つ一つ解決すれば秋の試合には一つでも多く勝つことができるだろう。そして、ラグビーをして過ごした高校時代のいい思い出にしてみたい。

新人戦・春季大会を観戦して

鈴木 隆 (昭和 35 年卒)

「CHANGE OF PACE の勧め」

後援会 HP 掲載のスケジュールのお蔭で、一昨年の全国大会予選以降新人戦や春季大会など母校の応援に極力駆けつけている。勝っても負けても試合後のシニア OB とのラグビー談義は楽しく、炎天下の練習でも水分補給が認められなかった現役時代の非科学的トレーニングなど色々なことが話題になる。当時とはボールを始めジャージやスパイクの素材も変わったが、最大の変化はルールが少しずつ攻撃側に有利に変わり、観ている者には面白いスポーツになったと言えよう。しかし、実力差があると 100 点ゲームも稀でなくなり、かえって大味なゲームになってしまう危険性

も内包している。

現役時代に教わったラグビープレーの 3 原則は、LOW HEAD, HARD TACKLE, STRAIGHT DASH でした。この原則のうち、前の 2 つは今でも正しいと思うが、STRAIGHT DASH については最近とみに疑問に感じている。大学 3 年の時フランカーからフルバックにコンバートされたのだが、スクラムサイドを抜けてきた相手がロックであれば、どんなに大きくてもタックルポイントを捉えて何とか止めることが出来たものの、ちょこまか走って来るハーフにタックルをはずされた悔しい思いは忘れない。私は 3 つ目の原則は CHANGE OF PACE だと思う。試合中トップスピードで走ることが要求されるのは独走のときなどに限られる。それよりも、対面がいるとき抜く技術が大事で、それはこちらの狙いを予測させない緩急及び変幻自在のプレーである。ラグビーマガジン 5 月号に、日本代表の主将として評価の高い箕内選手のコンタクトプレーについての真髓が書かれていたが、タックルする時は相手の芯を狙い一発で倒し、ボールを持っている時はタックルの芯をはずし、倒れる前に味方にボールを繋げられるように心がけているとのこと。先般、東芝府中のジュニアクラブの練習を見学したら、小学校中学年の子供たちはスキースラロームのようにボールを持ってジグザグに走る練習を繰り返していた。我々の時代はバックスでもスワープやステップの練習に余り時間をかけなかった。バスケットボールで対面をかわす技術を身につけた選手がバックスで早く芽を出すことも稀でない。

春季大会第 1 回戦で小石川は目黒学園に 5 対 40 で敗退したが、新人戦の時よりもチームとしてのまとまりは数段進歩していたと思う。しかし、個々の体格・体力・技術・ラグビーセンスなどあらゆる面で目黒の方が少しずつ優っており、この集積が得点差に現れたものと思う。上位のチームに勝つには、一対一で負けていては実現しない。そのためには、筋肉トレーニングで鍛え、対面と

一対一で勝負できる技術を習得し、全体の状況を把握して戦法を選択するセンスを磨いて欲しい。秋にはもっと強い小石川を応援できるものと期待したい。



(右側が小石川高校)

春季大会を振り返って

島崎 和徳 (キャプテン)

新人戦が終わり数日たつと、早くも春季大会の組み合わせが決定しました。初戦は強豪の目黒学院でした。いきなりの強豪との対決にチームは驚きと不安を感じていましたが、練習をかさねていくにつれてそのような気持ちは絶対勝てるという自信へと変わっていきました。春休みは走り込みを中心に 3 時間練習し、チーム全員で相手のビデオを見て対策もたて試合にのぞみました。試合結果はとても悔いの残るものでしたが、秋季大会への手応えはしっかりつかめたと思います。とられた 6トライは全てミーティングや練習中に意識すればなくなるトライでした。秋に向けての課題は、まず個人のスキルの強化です。15 人で一つという意識も大切ですが、ここでいう時に一人一人が存在感を示すことができるようになればチーム力もアップすることでしょう。また、さらに走り込みを増やし、試合の後半になっても動きが衰えないようなチームを作っていきたいです。



(右側が小石川高校)

瀧上 希 (マネージャー)

春の大会終盤。スクラムを組む FW 陣の背中をぽんぽんと叩きながら「元気っ、元気っ!」と言って最後まであきらめない先輩の姿に心を打たれました。

「春を楽しみにしていな。」と山田先生がマネージャーに言い続けてきたこと・新人戦 3 戦目の勝利・キャプテンの怪我から復帰・練習風景……私は春の大会をとっても期待していました。しかし、相手は強豪目黒学院。結果的に負けてしまったことは残念ですが、今までよりも強くなっているように感じられた部員達の姿はとてがかっこ良かったです。

新年度を迎え、ラグビー部は部員 11 人・マネージャー 2 人が増えました。全体的にガタイが大きく、囲まれると少し怖いくらいです。そのガタイの大きさに加え、練習を見ていると経験者は然る事ながら、皆着実に上手くなってきているので、成長が楽しみです。しかし、2、3 年生を含めて、練習中の声あまり出ていないように感じられます。数人の声だけよく聞こえ、それもだんだんと減っていくので、やはり全員が声を出して気持ちを盛り上げていくべきではないかと思います。「声」と「気力」を出し、「青春」のラグビーを楽しみながらやってほしいです。

そして秋は 3 年生にとって最後の公式戦です。秋の大会に向けて、悔いの残らない試合ができるようにこれから始まる夏の暑い中での練習を頑張してほしいです。私達マネージャーとしても、今はまだ 2 年生が中心となったことで戸惑って迷惑をかけていることが多いけれども、一日でも早

く今の状況に慣れて部員をしっかりとサポートしていけるように頑張りたいです。



(右側が小石川高校)

山田 憲永 (顧問・体育科教諭)

「秋に向けて」

新人戦、春季大会と結果は芳しくないものでしたが、チームは確実に、一步、一步、成長しています。1年生も11名入部し、総勢37名で日々、練習に励んでいます。

春季大会初戦は古豪目黒学院と対戦。試合前のプラン通り(相手の大型FWの足を止める)に前半を戦うことができました。ただ、1トライ余分に取りられてしまいました。後半は攻め続けるシーンも多かったのですが、勝負所でトライを取ることができませんでした。

春季大会を終えて様々な課題が見つかりましたが、一番は体力だと感じました。相手に走り勝つ体力、「負けるものか」という気力を秋の大会までに養っていこうと考えています。この「負けるものか」という気持ちを持ち続けて戦うことが、今のチームに必要なことだと考えています。

新チームになって、まだベストメンバーで試合に臨んだことがないので、これが現チームの実力だとは思わないでください。きっと部員達は良い結果を残してくれると信じています。今後も応援をよろしくお願いいたします。



現役部員の状況

昨年に続き、37人と近年にない多くの部員で活動を行っています。

	ラグーマン	マネージャー
3年生	9人	2人
2年生	11人	2人
1年生	11人	2人
総勢	31人	6人

退部

3年生 遠藤 祥弘

2年生 岡村 雅人・若林 弦也・林 孝太郎

卒業生の進路

<平成17年卒業生>

國上 真由美 (立教大学文学部)

小林 弘和 (慶応大学法学部)

津田 彰 (早稲田大学社会科学部)

西山 一寛 (早稲田大学人間科学部)

<平成16年卒業生>

糸 哲雄 (静岡県立大学薬学部)

紅林 毅郎 (金沢大学文学部)

小池 夏夫 (早稲田大学人間科学部)

佐藤 尚人 (日本大学法学部)

新入部員紹介

(名前・身長(cm)・体重(kg)・希望ポジション・クラス・出身校・一言)



下段左から

渡辺 孝也

171・58・スクラムハーフ・F・練馬区立豊玉中学校

工藤 優太

170・58・ウイング・A・板橋区立志村第四中学校・ヒーローになりたい

若林 貴宏

159・73・フッカー・H・練馬区立旭丘中学校・俺 100kg になります

富田 俊介

173・67・No.8・G・江戸川区立鹿本中学校・黄色い 声援を呼びたい

中段左から

中原 優樹

174・80・プロップ・B・文京区立第七中学校・死ぬ 気で頑張ります

飯島 翔平

175・62・第二センター・F・板橋区立赤塚第一中学校・我無敵なり

池田 勇輝

174・74・スタンドオフ・B・板橋区立西台中学校・モテたい

上段左から

大友 浩介

168・64・フランカー・E・豊島区立巣鴨北中学校・ マッチョになりたい

鳥居 達也

164・65・第一センター・G・板橋区立西台中学校・ とりあえず活躍したい

呉 和樹

175・90・フォワード一般・H・練馬区立上野中学 校・活躍したい

木村 正太郎

170・59・ウイング・A・板橋区立赤塚第一中学 校・バンナを超えたい!!

最上段左から

保科 まなみ

E・板橋区立中台中学校・がんばりたい。

高本 一恵

D・板橋区立高島第二中学校・ガンバリマス

○連載 OB コラム

今回で 5 回目となる OB コラムですが、今回は、昭和 56 年卒の矢島秀一さんに書いていただきました。次号は、昭和 57 年卒の富山晃嗣さんに書いていただきます。よろしくお願いいたします。

「チームワーク」

矢島 秀一 (昭和 56 年卒)

昨年の OB 会に出席した際、その席上で渡辺先輩にお会いしたのが運の尽き、いや、幸運で、この OB 連載コラムへ寄稿させて頂くこととなりました、昭和 56 年卒業の矢島秀一と申します。年は 42 歳、妻 1 人、子 2 人の平凡なサラリーマンです。

近年になって私が OB 会に出席するようになったのは、家族を一度、ラグビーを見に連れて行きたかったためです。体が小さく、か細い私がラグビーをやっていたということを今や誰も信じてくれず、家族にすら疑いの目で見られていて、OB

会であれば真実を証明できると思ったのです。

どの位ラグビーから遠のいているかというところ、ずばり高校卒業以来で、ラグビーをやっていた、やっていたことがある、やっていたような気がする、そんなレベルになってしまってもおかしくないくらい遠い昔の話です。本来であれば、大学ラグビーや社会人ラグビーで活躍されていた方が、渡辺先輩のようにクラブチームなどで現在も活躍されている方の話の方が、現役諸君や現在ラグビーをやっている方々の共感を呼ぶと思うのですが、指名されたからには堂々と、思い出話を中心に、私のようにすでに遠い思い出になってしまっている人、いずれ思い出になる時期が近い人を対象として、勇気を出して書いてみたいと思います。

中学時代に卓球部だった私がなぜラグビーをやることになったのか、その辺から話しましょう。中学時代の私の卓球のレベルは豊島区で三位、まずまずのレベルでしょう、当然高校でも続けようと思っていました。しかしなぜか、心の中に幼少の頃、入りたくても入れなかった少年野球チームへの憧れがあり、つまり、“チームワーク”という、美しい言葉がいつも羨ましく、卓球という個人ゲームでは味わえない、チームプレイへの羨ましさや後ろめたさを感じていて、チームプレイのできるスポーツを、なんとしてもやってみたかったのです。でもなぜラグビーだったのか。中学3年のときにたまたま遊びでアメフトが流行っていて、楕円のボールはラグビーも同じに見えたこと、高校から始めるには中学でも部活のある野球やサッカーではハンディがあると何となく思っていたこと、多分次の理由が決定的なのですが、卓球部の見学に行ったとき、多分そう見えたでしょう、途中で止める気なら入らないで欲しいと、しかめ面の先輩に言われ、そのおかげですっかり卓球に未練がなくなったこと、こうした数々の単純な動機で私はラグビー部の門をたたくことになったのです。ここで大きな難題が頭をよぎりました。私のような小者をラグビー部に入れてもら

えるだろうか？素朴な疑問でした。今もそうかはわかりませんが、ラグビー部の勧誘は当時かなりしつこくて、体の大きな新入生には片端から声がかけていました。しかし当然ながら私には声がかからず、先輩も素通り。かなり気が引けていましたが、気を取り直して、はっきり覚えていますが、当時の金安キャプテンに「ラグビー部に入りたいんです」と、あのプールの下の汚い部室と北の校舎との間のグラウンドへ続くその細い道の途中で打ち明けたのです。「それでは今日から練習に来て」。「？・・・！」。卓球部の先輩のようにしかめ面ではなく、今も忘れられない笑顔で、ようこそラグビー部へ、そう言ってくれたような気さえしました。この明るさと、私のようなチビでも快く受け入れてくれる、小石川高校ラグビー部の心の広さに感激しました。さらに感動したのは、初めて参加した部活の終了後、巣鴨の喫茶店に新入生が皆連れて行かれ、何でも好きな物を食べさせてくれたのです。早く入部した新入生は何回も連れて行ってくれるのでさらに感激し、なんて優しい先輩なのだろうと、少なくとも、夏休み前まではそう思っていました。

夏休み、これには大きな意味がありました。それまでお客様扱いだった1年生が初めて本格的な練習を開始する時期ですよ。記録的な暑さで、1日も雨が降らなかったその夏休みは、か弱い1年生には過酷でした。体の大きい者にはことさら辛かったと思います。実はこの年、ラグビー部創部30周年で、石黒さんを中心とした多くのOBの方々が練習に肩入れしてくれ、先輩に教わると同時に、OBの方々のスペシャルメニューでも教わることができ、か弱い1年生にはなおさら厳しかったのかなあと、今さらながら思い出しているところです。夏休みの途中で1人、また1人と練習に来なくなり、当然、人数が少なくなれば1人あたりの練習量が増えるので、部活後に1年生で立ち寄った喫茶店で明日もちゃんと来ようねと励まし合ったり、1年生皆で来なくなった仲間の家に電話をし、とにかく練習に来てくれと涙声で

懇願したり。ある日、来なくなったある部員の家に立て続けに全員で電話をし、最後に電話をしたものが電話に出た親御さんにもうやめてくれ、としかられたこともありました。1 年生初めてのチームワーク、かな。

夏休みが終わってみると、25 人ほど入部した 1 年生のうち生き残ったのが 7 人。それも中位から小さい者ばかり、小粒でもピリリと辛い、そんなチームになりました。バックスには関口君、田島君、辻本君、泉君と私が、フォワードにはキャプテンになった水沢君、笹本君がいました。秋になって俊足の岡本君が入部してきました。私と同じような体型だった田島君は最初スクラムハーフとして練習していましたが、ある日先輩から呼ばれ、フランカーをやってみないかといわれ、そのままフォワードになってしまった、少数世代の悲哀を味わった人間のひとりです。

バックスの先輩には、偉大なバックスバイス、早川さんがいました。フォワードの渡辺先輩も怖かったけど、直属の上司だった早川先輩はもっと恐ろしかった。早川先輩の怒りに触れないように、とにかくボールを落とさないこと、これが我々バックスの日課でした。早川さんは会社でも怖いのかなあ。

人数の少なさは私たちが 2 年になってから響いてきました。でも私たちは、優れた後輩に恵まれました。日頃の彼らの仲の良さはすごく光っていて、その仲の良さがチームプレイにつながっていました。君たちがいたおかげで弱小の我々は試合を組めたのです。皆やめないでくれてありがとう。

一番大切なことを忘れていました。毎日、汚い野郎どもを見守ってくれ、記録をつけてくれたマネージャーの方々のことです。私達の代のマネージャーは、先にも後にもこれ以上の美人はいないと他のクラブからも羨まれるほどの、皆どんなに辛くても痛くても、思わず大丈夫、と言ってしまふ、ときにはわざと「だめ」と言ってしまふ、女嫌いだったフッカーの笹本君さえもついには頼り切ってしまった、阿部さん、西岡さんのお二人

です。たとえプレーはしていなくても、私たちはいつも見守っているという、女性独特のスピリットがゲームにおいて野郎どもの力を引き出してくれました。マネージャーもひとつになって、チームワーク、今思えばそうだったのでしょう。今改めて、ありがとう、とお礼を言いたいと思います。今頃どうしてるのかなあ。改めて自分の今の名刺を見ると、「マネージャー」と書いてあるのが何とも不思議な気がします。

修学旅行、これもちょっと苦い思い出です。今もそうでしょうか。丁度秋の全国大会予選と時期が重なり、予選で負けると修学旅行に行けるのです。結局、修学旅行に行けてしまいましたが、当然後ろめたさがあり、毎夜、修学旅行先で練習していました。青春だよな。

いつも期末になると憂鬱になること、「矢島君、成績表出してね」。いつもは天使のようなマネージャーが悪魔の使いのようになる一瞬です。東大に行った田島君などは平均が 5 に近い成績表を堂々とマネージャーに渡していましたが、平均が 3 を下回る私はいつも、こそこそと提出したのを覚えています。勉学に支障があっては困るということらしかったのですが、最初から勉学に支障があったものにとっては、一体の何の意味があったのか。その成績表は今も大切にっておいてあります。

3 年になると、世代交代です。キャプテンを決める大きな作業が最後のチームワークでした。私たちは放課後の教室に 3 年生の選手とマネージャーが集まり、まじめに話し合いました。結果的に佐藤君が新キャプテンとなったのですが、皆優秀だったために、誰がなってもおかしくはなく、かなり長い時間話し合ったことを記憶しています。新キャプテンは全員のコンセンサスの上で決まり、その選出手順に間違いはなかったと思っています。

25 年、年とともに段々と薄れていく記憶の中で、不思議なことにこの時代の記憶だけは鮮明に残っています。夏の強い日差しの中で励まし合っ

た言葉の数々、冷たい冬の風の中で指先に感じたパスボールの感触。今や、たとえ誰も信じてくれなくても、タンスの片隅に大切にしまってあるボロボロの練習ジャージが、自分は“ラグビー”でチームプレイをやったということを、証明してくれるのです。

私の思い出話はこれで終わらせて頂きます。

最後になりましたが、今回の連載コラムを一つ下の代の富山晃嗣君にお願いしたいと思います。彼は当時スクラムハーフで、スタンドオフだった私はいつもボールを受ける立場でしたが、今回は彼にボールをパスしたいと思います。

昭和 56 年卒業 矢島 秀一
大鵬薬品工業株式会社 営業部 勤務

○OB 現役プレイヤーより

今回、高校を卒業してもラグビーを続け、タマリバクラブで活躍している井戸聞多さんからメッセージをいただきました。

「どこまでいけるか？」

井戸 聞多 (平成 12 年卒)

今、100m を 10 本走る練習があるとします。ある選手は 1 本目から次のことなど考えずに全力疾走します。そして出し切った彼は、最後には歩くようなスピードで走り抜けました。ある選手は残りの本数を考え、最初から最後までペースを変えずに走りました。さて、あなたはどちらの選手でしょうか？

最近、CM でよく見かける言葉があります。「どこまでいけるか？」この言葉を、私はとても深いものだと思います。タックルバックに入る一本のタックル、走り練習における一本のダッシュ、どれだけのものをそこに込められるか。それはあなたの魂、あなたがラグビー選手としてこの世に残すもの。練習後の居残り練習、やろうかどうか迷うとき、今日は疲れたからやらなくていいや、という選択をしたとする。そのとき、自分に問う

て欲しい。そもそも、何のために練習をしているのか？ 疲れた自分の体に満足したいのか？ 否、克つ為である。それは、己に克ち、その成果として敵に勝つという事である。高校生の頃、私も弱かった。苦しい、辛い、もう辞めたい。そんな思いを持ってボールにしがみついていた事もあった。私は現在、タマリバクラブでプレーを続けているが、過酷なレギュラー争い、日本選手権、世界大会を経験することを通して、大きな目標を掲げることで、己に克つ為の強い心が生まれるということを知った。

男の子に生まれて、ラグビーをしていて、超えるべき相手がいる。それだけで充分だ。みなさん、目標を高く、明確に持ってください。それができればきっと、「どこまでもいける」。同じフィールドに敵と相対した時、どちらのチームが「どこまでいった」か？それが勝負を決めるはず。才能とか体の大きさとか、そんなものは関係ない。

私も現役からみれば過去の人、とやかく言っても届かないかもしれない。ただ、どんなにラグビーが進化し、昔の理論が通じなくなったとしても、「人間としてのひたむきさ」、これだけ是不変の真理であると思う。母校、小石川高校が強いチームでありつづけて欲しいことを願ってやまないOBとして、現役の皆さんにこの言葉を理解してもらいたい。

「どこまでいけるか？」

以上、長々と失礼しました。OB、諸先輩のみなさんを無視した文章になったことをここにお詫びします。現役の皆さん、頑張ってください。

○理事会より

ご挨拶

後援会会長 川口 明(昭和 42 年卒)

いよいよ来年度から小石川は中高一貫校としての入試が始まります。今迄は高校 3 学年で各学年 8 クラスが来年度からは中学から高校にかけての 6 年間で各学年半分の 4 クラスになる訳です。問題の一つは高校生としての生徒数が半数になり、それに伴いラグビー部員も半数になる可能性があることです。もう一つの問題は中高一貫校の中で高校生(中高一貫 4 年生)になったらラグビー部に入って高校の大会に参加するのかなという事についてです。上記の問題については理事会等で検討を重ね中学部分でのラグビー部の創設、小学生のラグビースクールへの小石川の PR などを考えております。

これらの施策の実施については後援会の会員の皆様の御理解と御協力を是非ともお願いしたいと思います。一番簡単で手っ取り早い協力の方法は会費の納入です。どうか宜しくお願いいたします。

○平成 17 年度総会のご報告

総会承認事項

去る 6 月 25 日、小石川高校において平成 17 年度後援会定期総会が行われました。13 ページ以降に記載されております平成 16 年度決算報告、平成 17 年度予算等につきまして、総会において承認されましたのでご報告いたします。

総会の模様

斎藤 十五(平成 15 年卒)

6 月 25 日、平成 17 年度小石川高校ラグビー部後援会総会が行われました。例年は 7 月の後半に行われていますが、その時期は現役にとってはテスト直後である等の問題から、いつもより早めの日程となりました。

まず、猛烈な日差しの中、恒例の現役対 OB の試合が行われました。OB のメンバー不足が心配

されましたが、卒業したばかりの若手 OB が大勢参加してくれたこともあり、無事にチームを組むことが出来ました。もちろん、上の代の方にも参加していただきましたが、世代を超えて OB としてチームを組むというのは、めったにない機会だと思いますので、もっと大勢の方に参加していただけるとありがたいです。

試合は OB の勝利となりましたが、現役の選手も気持ちのこもったプレーで、OB に向かっていっていました。また、合間には 1 年生とのタッチフットも行われました。技術的なことはともかくとして、1 年生に元気がなかったのは少し残念でした。

試合終了後、紫友会館 3 階の和室にて総会が行われました。総会には年配の方をはじめとして大勢の OB に参加していただきました。総会では、まず、顧問の先生方、川口会長、現役キャプテン、バイスキャプテン、部長の挨拶が行われ、それから、平成 16 年度の決算報告、17 年度の予算案や予算徴収方法、活動計画、そして、今回のメインの議題である中高一貫化についての報告が本稿でも原稿を担当して頂いた俵さんによって行われました。また、顧問の山田先生からも現状や今後の方針、展望についてお話を頂きました。

最後に行われた意見交換では特にこの件について多くの方から貴重なご意見を頂きました。なお、今年は校内では総会のみ行い、懇談会は近くの千石会館・彩華園で行われました。

平成 17 年度会費納入のお願い

今後も後援会活動を充実させていくため、年会費の納入をお願いします。

また、同時に寄付も募集しています。年会費と同時にお振込みください。ご協力よろしくお願い致します。平成 16 年度会費未納入者の方で今年度会費額を超えて納入していただいた方は、超えた分を平成 16 年度会費分とさせていただきます。

ご挨拶**会費納入担当 植草 正信 (昭和 43 年卒)**

昭和 43 年卒業の植草です。

私は今まで会社の転勤で地方勤務が長かったのですが、昨年よりようやく東京本社勤務となり理事会にも出席するようになりました。理事会に出席して気づいたのは、後援会費の納入率がいたって悪いということでした。

私も小石川のラグビー部では、通常の生活では味わえないたくさんの経験をさせていただき、東京に帰った際は何かラグビー部のためにお役にたとうと考えていたため、今年より会費納入担当を引き受けることにしました。

後援会として現役の支援はもちろんですが、来年には小石川中学新設に伴う中学ラグビー部の創部という大きな課題をかかえています。そのためにも後援会費を多くの方に納入していただき、後援会の財政基盤を確固たるものになりたいと考えております。

ついては、私たちの身体および精神を鍛えていただいた小石川ラグビー部の支援のため、17 年度の後援会費を是非全員の方に納入していただきたくよろしくご協力をお願いします。

(1) 年会費は後援会規約第 6 条により社会人は 5000 円、学生は 3000 円となります。

(2) 年会費・寄付の納入方法は以下のとおりです。

郵便局

同封の用紙 (口座番号などはすでに記入済) に金額、送金人住所氏名を記入し、郵便局にてお振り込み下さい。

(手数料は不要です)

銀行

みずほ銀行 駒込支店 (店番号 559)
普通預金 口座番号 0451272 小石川高等学校ラグビー部後援会

(3) 会費納入は 9 月末日までをお願いします。また寄付は随時受け付けております。

学年幹事について

平成 15 年度より連絡体制強化のため、学年幹事を作りました。以下のように各学年 1 名、ないし 2 名の方々にいただきました。まだ学年幹事が決まっていない学年もございます。なっただけの方がいらっしゃいましたら、是非編集後記にありません連絡先までご連絡ください。

昭和 50 年卒	
昭和 51 年卒	小泉 良紀
昭和 52 年卒	平 耕一
昭和 53 年卒	本澤 豊
昭和 54 年卒	渡辺 将
昭和 55 年卒	新保 泰広
昭和 56 年卒	矢島 秀一
昭和 57 年卒	森林 滋
昭和 58 年卒	
昭和 59 年卒	渡辺 豊
昭和 60 年卒	
昭和 61 年卒	道家 竜馬 花島 毅
昭和 62 年卒	原 敬一郎
昭和 63 年卒	中村 浩一
平成元年卒	嵯峨山 聖基
平成 2 年卒	井上 浩志
平成 3 年卒	栗村 賢司
平成 4 年卒	
平成 5 年卒	菅原 賢
平成 6 年卒	尾崎 公律
平成 7 年卒	浜田 尊之
平成 8 年卒	
平成 9 年卒	
平成 10 年卒	
平成 11 年卒	山崎 陽一郎
平成 12 年卒	武藤 拓馬
平成 13 年卒	島崎 将成
平成 14 年卒	川崎 智康
平成 15 年卒	斎藤 十五 南 公一郎

公式ホームページ紹介

円滑な情報伝達と会員の親睦を図るために小石川高校ラグビー部後援会のホームページを開設しております。ホームページのアドレスは <http://www.geocities.jp/koishikawarugby/> です。ホームページ上の掲示板には OB、OG をはじめ、現役部員も書き込んでいます。1 度ご覧になり、近況や後援会に対するご意見、現役生への励ましなどを是非お書き下さい。

また現役の練習スケジュールも載せておりますので、ぜひ練習日程を確認していただき、グラウンドに足をお運び下さい。

後援会メーリングリスト参加のお願い

会員間の情報交換及び試合日程のお知らせなどのために後援会のメーリングリストを作成いたしました。参加希望の方は、下記の URL にアクセスしていただくか、又は連絡先の武藤にご連絡をしていただきますよう、お願いいたします。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/krc-koen/>

住所不明者

(敬称略)

旧顧問	内藤 敏明
昭和 27 年卒	浅川 幹雄
昭和 28 年卒	藤井 總明
昭和 29 年卒	神田 孝行
昭和 30 年卒	小林 庸治
昭和 34 年卒	堀井 昌博
昭和 34 年卒	山岸 萬男
昭和 35 年卒	前田 忠昭
昭和 36 年卒	江口 次郎
昭和 36 年卒	竹内 誠
昭和 37 年卒	伊藤 博利
昭和 37 年卒	杉本 優
昭和 37 年卒	船越 丈生
昭和 38 年卒	鈴木 健
昭和 38 年卒	野口 順三
昭和 38 年卒	清水 正一
昭和 39 年卒	金沢 洋一
昭和 39 年卒	西尾 征二
昭和 40 年卒	宮田 光彦

昭和 42 年卒	中村 善昭
昭和 43 年卒	吉田 隆治
昭和 44 年卒	内藤 清
昭和 44 年卒	柳原 彰一郎
昭和 45 年卒	成澤 淳
昭和 47 年卒	野口 直子
昭和 49 年卒	武藤 郁子
昭和 49 年卒	幸島 敏
昭和 50 年卒	荒井 優二
昭和 52 年卒	柵山 紀夫
昭和 52 年卒	小野(矢部) 邦子
昭和 53 年卒	菊地 昭仁
昭和 53 年卒	小森 学
昭和 53 年卒	永田 利樹
昭和 54 年卒	越田 明宏
昭和 55 年卒	手塚 正時
昭和 55 年卒	徳川 直久
昭和 55 年卒	大多和(森) 節子
昭和 56 年卒	泉 達也
昭和 57 年卒	佐々木 清子
昭和 58 年卒	千葉 元
昭和 58 年卒	阿部(高橋) 秀子
昭和 58 年卒	矢作 真樹
昭和 59 年卒	木内 俊直
昭和 59 年卒	遠藤 誠
昭和 60 年卒	奥津 勝
昭和 60 年卒	須田 大介
昭和 60 年卒	高橋 努
昭和 60 年卒	佐藤 修
昭和 60 年卒	江尻 剛
昭和 60 年卒	平石 憲一
昭和 61 年卒	嵯峨山 高志
昭和 61 年卒	市田 太一
昭和 61 年卒	山本 浩司
昭和 62 年卒	荒井 健次
昭和 62 年卒	山田 二郎
昭和 62 年卒	五十嵐 雅祥
昭和 62 年卒	高岡 由紀子
昭和 63 年卒	伊藤 誠
昭和 63 年卒	菅野 悦也
昭和 63 年卒	東野 武人
昭和 63 年卒	小笠原 裕司
平成元年卒	田代 安史
平成元年卒	宮本 健
平成元年卒	鴻谷 絵里
平成元年卒	小室 文也

平成 2 年卒	斉藤 慎也
平成 2 年卒	橋本 智
平成 3 年卒	山田 裕之
平成 5 年卒	鬼久保 大輔
平成 5 年卒	小山 慎一郎
平成 5 年卒	高野 信一郎
平成 6 年卒	酒井 くみ子
平成 6 年卒	佐藤 大喜
平成 7 年卒	榎 達也
平成 9 年卒	梅谷 哲也
平成 9 年卒	井口 敦
平成 10 年卒	安田 大成

以上の皆様の住所をご存知の方、引越し等で住所を変更される方は編集後記にあります連絡先までお知らせください。

編集後記

一昨年から理事の一員として、理事会の活動に参加させて頂いていますが、同じタイミングで来年からの小石川高校の中高一貫化という非常にシビアな問題が浮上してきたことに少し困惑しています。

理事会でもこの問題に対してさまざまなことが話し合われていますが、非常に厳しい状況です。詳しくは別記の記事を読んで頂きたいのですが、おそらく OB・OG の皆さんの中にはこの問題について全く知らなかったという方もいるのではないかと思います。この会報を通して少しでも皆さんに現役の活動も含めてラグビー部の現状を知って頂ければ幸いです。

また、現役の大会での結果というのも、来年以降の活動にはもしかしたら後援会の活動以上にダイレクトに響いてくると思います。秋季大会が最後となる 3 年生に悔いのない試合をしてもらいたいというのももちろんですが、そのような面も含めて「小石川高校ラグビー部」の活躍を期待しています。

最後に、本報の編集にあたり、ご多忙の中原稿

執筆等にご協力して下さった皆様、ありがとうございました。

(編集担当：斎藤 十五(平成 15 年卒)
南 公一郎(平成 15 年卒))

なおこの会報についてのご意見、お問い合わせ等は、以下の連絡先までお願いいたします。

< 連絡先 >

武藤 拓馬 (平成 12 年卒)

住所:〒175 - 0082

東京都板橋区高島平 7 - 20 - 10 - 404

TEL : 090 - 6140 - 8356

E-mail: brief_schicken@hotmail.com

次回の会報は平成 17 年 1 月発行の予定です。

小石川高校ラグビー部後援会

平成 16 年度 (平成 16 年 7 月 1 日~平成 17 年 6 月 30 日) 決算

収入の部	年会費及び寄付	¥626,960
	利息	¥6
	前年度繰越金	¥1,177,049
	懇親会立替金返済	¥78,000
	合計	¥1,882,015

支出の部	学生強化費	¥262,500
	夏季合宿 OB 補助	¥0
	大泉定期戦費用	¥34,220
	通信費	¥120,280
	現役保険料	¥15,000
	60 周年積立金	¥100,000
	雑費	¥23,658
	予備費	¥0
	懇親会立替金	¥90,000
	合計	¥645,658
	次年度繰越金	¥1,236,357

以上

小石川高校ラグビー部後援会

平成 17 年度 (平成 17 年 7 月 1 日~平成 18 年 6 月 30 日) 予算

収入の部	年会費及び寄付	¥800,000
	利息	¥10
	前年度繰越金	¥1,236,357
	合計	¥2,036,367

支出の部	学生強化費	¥300,000
	夏季合宿 OB 補助	¥90,000
	大泉定期戦費用	¥150,000
	通信費	¥120,000
	現役保険料	¥15,000
	振替手数料	¥5,000
	60 周年積立金	¥100,000
	雑費	¥10,000
	中高一貫対策費	¥150,000
	予備費	¥1,096,367
	合計	¥2,036,367

以上